

## 国際人口学会・世界出生力調査・ロンドン大学

### 人口研究所共催「妊娠・出生歴分析セミナー」

標記のセミナーがロンドン大学衛生・熱帯医学部人口研究所にて、1980年4月9日から11月までの3日間開催された。このセミナーは国際人口学会「出生力比較分析委員会」の特別セミナーであるが、そのほかに世界出生力調査とロンドン大学人口研究所が、共スポンサーとして内容的かつ財政的に参画している。約30名の各国からの出生力分析の専門家が参加した。代表的な学者として、スポンサー側から Henri Leridon 博士（国際人口学会出生力比較分析委員長、フランス国立人口研究所部長）、V. C. Chidambaram 氏（世界出生力調査副所長）、William Brass 教授（ロンドン大学人口研究所長）が出席、さらに Princeton 大学の Norman Ryder 教授、Ansley J. Coale 教授、ベルギーの Ron Resthaeghe 教授、世界出生力調査の John Hobcraft 氏、インド、ボンベイの人口研究所長 K. Srinivasan 教授、ハワイ東西センター Lee-Jay Cho 博士、米国 Population Council の John Bongaarts 氏、ハンガリー中央統計局 A. Klinger 氏等が出席した。日本から厚生省人口問題研究所河野稠果が参加した。

会議の内容は、主として世界出生力調査のデータにおける妊娠歴・出生歴の解析が中心となり、妊娠歴・出生歴における定義の問題、分析に際しての方法論の問題、とくに生命表の手法を用いての出生間隔の複合生命表的解析、シミュレーション法を用いての分析が論ぜられた。次に妊娠歴、出生歴のデータの評価・補正の問題が重点的に取り上げられ新しい方法が二、三紹介された。最後に6、7カ国のケース・スタディの結果が発表され、各国の世界出生力調査の資料を使っての妊娠歴・出生歴に関する研究の概観が行なわれた。（河野稠果記）